



Project MAWASU第2回国際セミナー、第4回P2P会議開催

2014年11月20日(木)にProject MAWASU第2回国際セミナーを厚生労働省やさいたま市水道局、川崎市上下水道局など日本のMAWASU協力団体をはじめ、海外参加者も含め約200名の参加を得て開催しました。昨年のセミナーではプロジェクト概要説明が中心だった発表内容も、今年はプロジェクト2年間の活動進捗ということもあり具体的な活動が報告されました。

11月21日(金)は第4回プロジェクト間(P2P)会議の開催です。こちらは参加者数を限定し、「水道水を飲む文化の醸成」について議論を行いました。



Project MAWASU第2回国際セミナー

MAWASUプロジェクト期間中(2012-2017年)に1年に1度開催される国際セミナーの第2回目が2014年11月20日(木)に首都ビエンチャンのラオプラザホテルで開催されました。日本からは厚生労働省やMAWASUプロジェクト協力水道事業者であるさいたま市水道局、川崎市上下水道局役員、JICA本部担当が出席、ラオス側は、主催者である公共事業運輸省に加え、全国の県公共事業運輸局および水道公社管理職者が出席しました。近隣諸国ではカンボジア、タイ、ミャンマー、インドネシア、ベトナムからも代表者が出席し、総勢200名規模の国際セミナーとなりました。

Project MAWASU 国際セミナーの主旨は、MAWASUプロジェクトの活動を国内外の水道分野関係者に報告し意見交



換を行うというものです。第2回目となる今回は、プロジェクト概要紹介が中心だった前回とは異なり、プロジェクト開始2年間の成果発表の場となりました。特に、3パイロット水道公社はそれぞれアピールしたい成果があるものの、活動内容が同じということもあり報告内容を分担し、MAWASU活動全体が分かるよう工夫しました。

セミナーのテーマおよびプログラムは以下のとおりです。
テーマ「Challenge for Creating Culture to Drink Tap Water by Supplying Drinkable Tap Water, Anytime Anywhere (いつでもどこでも飲める水を提供することにより水道水を飲む文化醸成への挑戦)」
プログラム

1. 主催者挨拶(公共事業運輸省、JICAラオス事務所)
2. 来賓挨拶(厚生労働省、さいたま市水道局、川崎市上下水道局)

(続きは2ページ)

ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクト

ラオス国では1999年に出された首相令により、2020年までに都市人口の8割に対して24時間の安全で安定的な都市給水を行うことを目標としています。JICAをはじめ各ドナー機関はこれまでに様々な支援を行っていますが、2010年の都市における水道普及率は55%にとどまっています。国が掲げる目標値を達成するためには、水道施設のさらなる拡張・更新、そのための事業運営の効率化を通じた投資資金の確保が必要です。事業運営効率化に向けては、これまでに短期的な計画策定とモニタリングの枠組みが設定されています。しかし、自力では短期計画の策定や更新ができない水道公社が多く実効性に乏しい枠組みとなっています。また、水道施設拡張・更新に必要な、中長期的な水需要予測や財政収支見通しに基づく事業計画の策定とモニタリングは管轄省庁である公共事業運輸省による制度化すらされておらず、現にほとんどの水道公社は中長期事業計画を有していません。

そのため、本プロジェクトでは、公共事業運輸省を主なカウンターパートとし、首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、カムアン県の水道公社をパイロット水道公社に選定し、①事業計画策定に必要なデータ管理強化、②短期・中期・長期事業計画策定/実施能力強化、③事業計画モニタリング強化、④水道事業計画技術ガイドライン整備、⑤事業計画策定の全国普及へのメカニズム構築を行い、事業管理能力強化の仕組み整備を行っています。

パイロット水道公社 (3公社)



ルアンパバーン県水道公社 (北部)

首都ビエンチャン水道公社 (中央部)

カムアン県水道公社 (南部)

Project MAWASU第2回国際セミナー（続き）

3. MAWASUプロジェクト概要（チーフアドバイザー）
4. 行政による挑戦1（住宅都市計画局）
5. 行政による挑戦2（水道規制室）
6. 水道公社による挑戦1（首都ビエンチャン水道公社）
7. 水道公社による挑戦2（ルアンパバーン県水道公社）
8. 水道公社による挑戦3（カムアン県水道公社）
9. 公開討論
10. 閉会の挨拶

発表内容をもう少し詳しく見ると、下村リーダーによるMAWASUプロジェクト概要では「MAWASUの精神：MAWASUプロジェクトの健全な管理～悪循環から好循環へ～」として1. 経営能力強化に向けたMaWaSUの事例、2. MaWaSUのプロジェクト管理のノウハウについて報告がありました。

住宅都市計画局（DHUP）はMAWASUプロジェクトで、水道ビジョンの策定、ラオス水道協会設立準備、PPPガイドラインの議論を行っていますが、当日は（恐らくDHUP内の調整不足で）ラオス水道分野の概要が発表されました。

水道規制室（WASRO）からは、既存ガイドラインに沿った指標（9KPI）算出方法確定と全国展開、（新）水道事業ガイドライン・ドラフト版作成と報告書、水道事業統計作成準備といった日々の活動報告が準備されていましたが、こちらも直前に報告者変更などがあり、修正された形で報告がなされました。

3パイロット水道公社からの発表は、1ヶ月前に準備会合を開き、月例会議や週会議でリハーサルを行うなど綿密な準備が進められました。MAWASU活動として3水道公社に対して基本的に同じ支援を行っていますが、それぞれ取り組み方や注目度が異なるため全ての活動を独自に報告したい要望がありました。しかし、セミナー参加者にMAWASU活動を理解してもらうため、3水道公社間で報告担当活動を以下のように決めることにしました。

- ・ 首都ビエンチャン水道公社：Output 1（水道事業年報、データ管理マニュアル、水道事業ガイドラインによる事業指標（PI）報告）
- ・ ルアンパバーン県水道公社：Output 2（長期計画概要、長期計画分野別計画）
- ・ カムアン県水道公社：Output 2（長期計画分野別計画：水道教室）



アンケートから見るMAWASU国際セミナー

Project MAWASU第2回国際セミナーのアンケート結果は以下のとおりでした（参加者200名、アンケート回収106名（回収率53%））。

「このセミナーに参加してよかったか?」、「Project MAWASUの活動に興味があるか?」という基本事項に対して106名全員が「Yes」の回答。セミナー開催の一義的な目的は達成できたと考えられます。

「セミナーの中で興味を持ったものは何か?」と発表内容について問う質問では、71名が「行政による挑戦1（住宅都市計画局）」を挙げトップ。MAWASU専門家団から見るとMAWASU活動を報告していないのになぜ?と首を傾げる結果でした。もちろん水道行政を担う住宅都市計画局の発表、知名度の高いNoupheuk副局長の発表という側面もありますが、ラオスの水道分野を包括的に報告したこともよかったと思います。次回はMAWASU活動の報告で高評価を得てもらいたいと思います。



ラオス水道の第一人者とも言える
Noupheuk副局長

次点は3パイロット水道公社の発表が続きます。3水道公社がMAWASU活動を分担して報告したこともあり、参加者にMAWASU活動を詳しく理解してもらえたと判断できます。

「あなたの県の水道分野においてProject MAWASUに期待するものは何か?」、「あなたの県の水道分野において日本政府、JICAや日本企業に期待するものは何か?」、「その他のコメント又は質問があればお書きください」については、予想を上回るコメント数をいただきました。内容は水道分野全般の支援に亘るので、データ管理や事業計画策定、技術分野では無収水管理、漏水検査、水質管理など、事務分野では人材育成、財政管理、顧客サービスなどが含まれていました。また、直接的にMAWASUプロジェクトに来てもらいたいと水道公社名を記載している回答も複数あり、MAWASUプロジェクトに期待していることが伺われます。全体としては、浄水場建設などの無償資金協力、MAWASUプロジェクトなどの技術協力プロジェクト、機材供与や日本での研修などの要望が多く、日本がこれまで実施しているODAが肯定的に捉えられている内容でした。

特記事項としては、「ラオスで飲める水道水を供給するようプロジェクトの支援を要望する」などのように「水道水を飲む」ことに言及するコメントも多く見受けられました。閉会の挨拶でKhamthavy住宅都市計画局長より「ラオスでは適正な価格でいつでもどこでも飲める水の供給」を目標にしているとの発言もありました。MAWASUプロジ



閉会の挨拶で「飲める水の供給」に言及するKhamthavy局長

（続きは3ページ）

第4回プロジェクト間 (P2P) 会議

プロジェクト間 (P2P: Project to Project) 会議は、東南アジア近隣諸国の水道事業体間の意見交換の場です。もともとはラオスとカンボジア、ベトナムのJICA水道分野プロジェクトの情報交換会議としてスタートしましたが、第3回 (2013年) から「水道水を飲む文化の醸成」をテーマに情報・意見交換を行っています。

第4回の今回は、別項「Project MAWASU第2回国際セミナー」と日程を合わせることで、カンボジア、タイ、インドネシア、ミャンマーの水道関係者およびJICA専門家が出席できることになりました。



P2P会議の議長を務める Noupheueak 副局長

「水道水を飲む文化の醸成」への取り組みとしては様々な方法があります。ラオスからの報告は、MAWASUプロジェクトで支援を行った水道事業ガイドライン作成についてです。①「水道の使命・目的」、②「活動要素と各活動」、③「活動の評価」からなる水道事業ガイドラインを作成し、行政ならびに水道公社が水道事業をモニタリングするという点から「水道水を飲む文化の醸成」へ取り組んでいることが報告されました。

カンボジアも同様に行政からのアプローチで、主に水道法および関連規則についてです。カンボジアではまだ水道法が制定されておらず、現在制定に向けてJICA水道プロジェクトの中で支援を行っているとのことでした。P2P会議を利用して近隣諸国の水道法、関連規則について情報収集を行いました。

アンケートから見るMAWASU国際セミナー (続き)

アンケートやセミナーを通じて、水道＝飲む水の給水という認識が広がってきています。

タイ王国首都圏水道公社 (MWA) のChalinthornさんはカムアン県水道公社が発表した水道教室について、「小学生が水道公社の事業と水道水の水質について正しい理解を持ち、家に帰り両親や家族に広めていくことは素晴らしい」とコメントしています。

その他、日本政府や日本企業への期待として、恒常的な長期低利ローンシステムの支援やラオスでの水道分野部品工場の設置などの意見がありました。

Project MAWASU第2回国際セミナーアンケート用紙

今回から参加のインドネシアおよびミャンマーからは行政官が参加し、両国の水道分野の概要や飲む水の供給についての取り組みが報告されました。同じく今回から参加のタイ (タイ王国首都圏水道公社 (MWA) とタイ地方水道公社 (PWA)) からは水道公社実務者からそれぞれの業務概要およびタイ人が水道水を飲まない要因、水道水を飲むための取り組みについて詳細な報告がなされました。

今回のP2P会議は初参加国が多く、各国の概要ならびにそれぞれの「水道水を飲む文化の醸成」の取り組み紹介が主な内容でした。そのため、前回の2013MAWASU宣言の内容を踏襲する形で、①お客様へよい水道サービスの提供、②水安全計画の実行、③オフィスや水道施設の清潔保持、④水道教室を含む広報を引き続き継続することを確認する2014MAWASU宣言を行いました。

次回は上記4項目を掘り下げた議論が期待されます。



P2P会議は形式張らずに気楽に意見交換ができるのも特長

セミナーウィークのその他の活動

Project MAWASU第2回国際セミナーおよび第4回P2P会議を開催した週は、日本厚生労働省主催「第2回ラオスー日本水道セミナー」も開催されました。このセミナーはラオス水道分野へ日本の水道関連民間企業の紹介が目的であり、MAWASUプロジェクト協力主体水道事業体であるさいたま市水道局も共催として、長年のラオス水道分野への協力関係からサポートされています。



第2回ラオスー日本水道セミナーで挨拶される厚生労働省高澤室長

ラオス側も近年、民間活用に注力しており、本セミナーへは副大臣クラスも出席し、意識の高さが伺われます。

参加日本民間企業は、フジテコム (株)、日本原料 (株)、(株) トークミ、大肯精密 (株) の4社がセミナーで事業・製品を発表し、パネル展示には4社に加えてラオスの民間企業も製品や資料を展示していました。

セミナーウィークの初めには、ラオススタイルのバーシー儀式で一連のセミナーと会議の成功を祈願しました。



*** 皆様のご意見・ご感想をお待ちしております ***

ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクト事務所

Eメール/電話: jicapimawasa@gmail.com / (+856-21) 260493

プロジェクトホームページ: <http://www.jica.go.jp/project/laos/012/index.html>